

2 完全競争市場：需要と供給

テキスト対応ページ 1章 需要と供給の理論 (P17-P36)

2.1 黄金のクロス—理解できているか？

- DS 曲線とその交点...黄金のクロス。たぶん経済学のすべての教科書に載っている。“ゴールデンクロス”の図
- この図を理解しなければ、経済学部を出たとは言えないだろう。しかし高校生でも習う、この図の見方は意外に難しい。(私も高校のとき、よく理解できなかった。)
- なぜ難しいのか？どう考えるべきなのか？何に気をつければよいのか？以下で考えていこう。

例えばこんな問いを考えてみる。

問題 1

1.2. のうち正しそうなのはどちらか。

- (A) 最近マンションブームで、マンションの需要が増えている。さてマンションの価格は (1. 上がる, 2. 下がる)。
- (B) 最近マンションの価格が値下がりしており、これによりマンションの需要が (1. 増えている, 2. 減っている)。

ところがこの問題を見ると、少し矛盾らしきものが出てくる。

- 一方では、「マンションの需要が増えれば、マンションの価格が上昇する」と言い、もう一方では「マンションの価格が下落したので、マンションの需要が増える」と言っている。
- 「需要増」と「価格の上下」の関係は？

需要曲線とその読み方を考える 価格と需要の関係を表わすのが「需要曲線」である。たいていは右下がり¹⁾である。この読み方を考えてみよう。テキスト：焼き芋の価格が安くなれば需要が増える。マンションの価格が下がれば需要が増える。

価格が下がれば需要が増える 読み方は正しいらしい？

× 需要が増えれば、価格が下がる 読み方は誤りらしい？

ポイント：

- 消費者は価格受容者 (プライステイカー)
- 与えられた価格のもとで、需要を決める (価格をつけることはない)
- 「需要曲線」は、価格受容者の消費者の行動を示したもので、「価格の変化に対し、どのように需要が増減するか？」を示す。
- 需要の増減で、どう価格が動くか？は示していない。

¹⁾なぜ右下がりか？まれに右上がりのときもある。後で詳しく考える。

- では(B)の「需要が増えたので、マンションの価格が上昇した」の「需要が増えた」とは？
「需要曲線が右に移動した」という事である。

すなわち需要が変化する要因を2つに分けることが大切だ。

- (1) 価格の変化によるもの 需要曲線に沿った変化で考える。
- (2) 価格以外の変化によるもの 需要曲線の移動(シフト)による変化で考える。

価格以外の変化とは？ 所得、他財の価格の変化、消費者の好み(選好)の変化

「需要が増えた」「需要が減った」とは、(1)・(2)のどちらの要因によるのか区別して考える。

2.2 完全競争市場の分析方法

完全競争市場を分析する基本的な考え方

- 完全市場の理論—多くの消費者，生産者
- 消費者・生産者は価格受容者
- 消費者は価格によって需要量を決める
- 生産者・企業は価格によって生産量を決める。
- 価格は、市場が調整機能を働かせて、需要と供給の一致する点(=需要曲線と供給曲線の交点)によって決まる(「市場」が決める)
- この価格を均衡価格と呼び、均衡価格とそのときの需要量(=供給量)を均衡点と呼ぶ。
- この価格を均衡価格と呼び、均衡価格とそのときの需要量(=供給量)を均衡点と呼ぶ。
 - 短期的には均衡しないこともある。
 - 細かい部分は無視する。
 - 完全競争市場は現実的な仮定ではないと思うかもしれない。しかし、基本理論として必要。仮定を緩める(不完全市場、不均衡動学、ゲーム理論)ためには、基本的な考え方を習得する必要がある。
- 非常に短期では、均衡以外の価格もつくが、ある程度の時間が経てば均衡点に行き着くと考える。
- したがって説明は必ず均衡点の比較で行う均衡していない状態は、途中経過として考えない。これを比較静学の立場や均衡分析と呼ぶ。
- 完全競争市場に限らず、現在のミクロは基本的に均衡分析で説明する。

問題1の考え方

- 「価格」は「市場」で決まるもので、需要サイド(消費者)や、供給サイド(生産者)がつけるものではない。
- 「需要が増えた」ので「価格が上がった」とは、
 - 価格の要因以外で需要が増え D から D' に需要曲線がシフトしたので
 - P から P' に均衡価格が変化した
 という意味である。

「需要」と「需要量」を区別すると分かりやすい 一般に需要が増えたとは、需要量が x から何か
に変わった意味ではなく、需要曲線が右にシフトしたという意味である。その需要が増えた結果、 x
から x' に需要量が変化する (需要と需要量という言葉で区別すると分かりやすい)。

問題 2

では! But! 「マンションの価格が下がったので、需要が増えた。」は均衡点での説明をしているのか?

例えば次のような答が考えられる。

- 「マンションの価格が下がったので」とは、均衡価格が下がった事を意味する。均衡価格が下がるためには、需要曲線か供給曲線のシフトがあるはずだ。例えばマンションの建設ラッシュで、マンション供給が増えた、など
- そこで、「S から S' に供給曲線がシフトしたので」「均衡価格が P から P' 」に下がり、需要量が x から x' に増えた、という説明をしていると考えられる。

間違いやすいのは、「需要が増えた」という言葉を「需要曲線がシフトした」意味と、「需要量 (均衡点の) が増えた」という2つの意味で用いるからで、どちらを指しているのか、よく考える必要がある。

供給曲線も読み方は同じ 以上、需要曲線 (消費者行動) の立場で見てきたが、供給曲線でも同じ。価格と供給の関係を表わすのが「供給曲線」である。たいていは右上がり。

価格が上がれば、供給量は増える

× 供給量が減れば、価格が下がる

供給量が増える2つの要因

(1) 価格の変化によるもの 供給曲線に沿った変化

(2) 価格以外の変化によるもの 供給曲線の移動による変化 (シフト) による変化

価格以外の変化とは? 生産要素価格の増減, 生産技術の変化, 環境の変化, 生産費用の変化

「供給が増えた」と言う時は、供給曲線のシフトによるものなのか、均衡点の変化による供給量の変化なのか、注意。

演習 1

次の現象を説明せよ。

1. イワシが不作なのでイワシの価格が上がった
2. サンマが豊漁なので、サンマの価格が下がり、サンマがよく売れている (需要が増えた)。

2.3 価格の調整過程と安定性 (テキストにはない)

では、一時的に価格が均衡より外れた場合は、どのように価格は均衡価格へ向かうのだろうか？これは、均衡分析・比較静学の立場からは無視された問題であるが、これがはっきりしなければ、均衡点の分析は意味をなさないだろう。これを価格調整過程 } といい、ワルラス的調整過程がその代表的例として考えられている

ワルラス的調整過程

- 現在の価格に対して、需要量 > 供給量のとき超過需要が生じていると言い、需要量 < 供給量のとき超過供給が生じていると言う。
- 超過需要では価格が上昇
- 超過供給では価格が下降

(例) 現在、需要曲線は D、供給曲線が S、その均衡価格が P であったとしよう。

- 1 イワシが取れない (供給曲線が S から S' にシフト)
- 2 価格が P のままだと超過需要が発生！価格が上昇 ($P < P'$)
- 3 やがて均衡価格 (P') に
- 4 イワシの不漁で P から P' に価格が上昇した (均衡分析)

他に、マーシャル的調整過程、くもの巣調整過程などがある。

2.4 完全競争市場を分析してみよう

ここまで習った事を用いて、テキストに沿って完全競争市場を分析してみましょう。需要と供給の両方の側面が価格の変化を決めると言う点が重要であると言う事に気づくでしょう。

白菜の価格は、なぜ大きく変動するのか

- 白菜が取れないと価格が大きく上がる
- ポイントは需要曲線の傾きが急であること。(鍋に必要不可欠)
- 需要曲線の傾きが急 価格の変化に関して需要がほとんど変化しない。これを需要が非弾力的である、と言います。(生活必需品は非弾力的)
- 供給曲線はほとんど垂直 (価格による調整ができない)
- ここで生産量が変化しているのに、需要曲線の傾きが価格変化に関係していることに注目！
- 相手の傾きが決める！各年の収穫量と価格をプロットすると、需要曲線が書ける
- 経済学を習わないと、白菜の価格が安いのは白菜が豊作だったからだと単純に考える。価格変化には白菜の需要の弾力性が深く関与！
- 需要が弾力的 (価格の変化によって需要が大きく変化するもの) で比べてみよ。
- 価格変化に「弾力性」は重要な概念。どんなときに弾力的で、どんな時が弾力的でないか？

鉄道の開設と地価 (需要面の変化) 鉄道の開設

- 鉄道の開設によって需要が増加 (需要曲線が右にシフト)
- 地価の上昇の幅は、供給曲線の傾きに依存!
- やはり、経済学的思考がないと、地価が上昇するのは土地の需要が上がったからだ単純に考えてしまう。

問 1

では、供給が弾力的なときと弾力的でないときに、価格変化がどうなるか考えてみよ。

消費税は誰が負担するのか？

- 消費税：供給曲線が税金分上にシフト
- 価格の変化は「需要曲線」の傾きに左右される

問 2

では、需要曲線の傾きが急なとき（非弾力的）と、緩やかな時（弾力的）で、価格変化がどうなるか考えてみよ。

2.5 まとめ

- 完全市場の分析では、消費者・生産者は価格受容者
- 消費者は価格によって需要量を決め、生産者・企業は価格によって生産量を決める
- 市場が調整機能を働かせて、需要と供給の一致する点によって価格を決める。これを均衡点と呼ぶ。
- 分析は均衡点の比較で行う。均衡していない状態は、途中経過として考えない。
- 曲線のシフトの意味での「需要の変化」「供給の変化」と、均衡価格の変化「需要量、供給量の変化」の区別に注意する
- 価格は需要と供給の両方によって決める。片方の要因が価格を決定するのではない。
- 需要と供給の変化による価格の変化は、変化しないほうの曲線の傾き（弾力性）に大きく左右される。（もちろん自分自身の変化量にも左右されるが...）

演習 2

テキストの演習問題 P34 の 1 を解け

演習 3

テキストの演習問題 P35 の 3 を解け

演習 4

ある財における需要曲線、供給曲線が以下の式で与えられるとする。

$$\text{需要曲線 } D = ap + b \quad (a < 0)$$

$$\text{供給曲線 } S = cp + d \quad (c > 0, d < b)$$

- (1) 価格を縦軸、数量を横軸としたグラフに需要曲線と供給曲線の概形を書きなさい。(通常のグラフと縦軸と横軸が逆になることに気をつけなさい。なお、横軸の交点の値も書き入れてください)
 - (2) 均衡価格を求めなさい。(元の式を使った方がよい)
 - (3) c が大きくなると供給曲線の傾きが急になるか、緩やかになるか
- ここで需要が増えて、需要曲線が右にシフトした時に、価格がどのくらい上昇したかを知りたい。
- (4) 需要曲線が $D = ap + b + \Delta b$ に変化したとする。 ($\Delta b > 0$) どのような変化か、新しい需要曲線をグラフに書き入れなさい。(横軸の交点の値も書き入れなさい)
 - (5) 均衡価格はいくら上昇したか、求めなさい。
 - (6) 供給曲線の傾きが急であると、均衡価格の上昇は大きいか小さいか、(5)で求めた値を使って説明せよ。
 - (7) t 円の物品税をかけた時、均衡価格はいくらになるか、またその時の売り手の負担分と買い手の負担分を求めよ (税金 t をどのくらいの比率で分担するか求めなさい)